

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.12/20(月) ~ R3.12/26(日) 令和3年第51週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	33人	17人	-	-
	② 対人口10万人	2.1人	1.1人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.94	2.43	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		48%	82%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		0.8%	0.4%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		12/26現在	12/19現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	14人	5人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	2.9%	1.0%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	1人	0人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	1.4%	0.0%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	36人	14人	-	-
	⑨ 対人口10万人	2.3人	0.9人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	12/26現在	12/19現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	38.9%	35.7%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」

懸念される変異株 : VOC	直近 1 週間 12/20 ~ 12/26	前週 12/13 ~ 12/19	累計 3/11 ~ 12/26
α 株 (アルファ)	0件	0件	203件
β 株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ 株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ 株 (デルタ)	26件	3件	540件
ο 株 (オミクロン)	-	-	-

ο株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行います。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、いわゆる第5波について、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして、週によって若干数値の増減はあるものの、第49週（前週）までは減少が続いていました。第50週（前週）は、数値としては入院中の重症患者数0を除いて、いずれの指標も若干の増加が見られ、第51週（今週：12月20日～12月26日）は、全体として落ち着いている状況が続いているものの、新規陽性患者数、入院中患者数、入院中重症患者はさらに若干の増加傾向にあることが注目されます。

ステージ分類は、第41週（10月4日～10日）、第42週と2週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、再び第44週（11月1日～7日）～第46週はステージⅣ、Ⅲのない状況が3週連続しました。第47週～第50週は感染経路不明者の割合が65%、75%、71%、82%と高値となり4週連続してステージⅣ（50%以上）となっていました。第51週（今週）は48%と減少したため、再びステージⅣ、Ⅲ解消となりました。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人・第49週7人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週17人、第51週（今週）33人と若干の増加が見られています。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第39週に9.0人と1桁台となり、第48週・第49週0.5人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週1.1人、第51週（今週）は2.1人と、若干の増加傾向が見られています。ステージ分類は第39～51週（今週）と13週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっています。
- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週（前週）は2.43と増加、第51週（今週）は1.94と減少しています。新規陽性者数が非常に少なくなった中での数値のため、今後も変動しやすい数値であると考えています。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となり、23週連続でステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）であったものが、24週ぶりにステージⅢ解消となりました。第43週は89%と上昇してステージⅣ、第44週は39%と減少し再びステージⅣ、Ⅲ解消となりましたが、第47週65%、第48週75%、第49週71%、第50週82%と増加し、4週連続してステージⅣ（50%以上）となった後、第51週（今週）は48%と低下し、ステージⅣ、Ⅲ解消となりました。③と同様、新規陽性者数が非常に少なくなった中での調査のため、今後も変動しやすい数値であると考えていますが、市内のどこか複数個所にウイルスが潜んでいて少数ながら感染者が持続して発生している状況が続いていると考えられます。
- ⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、表の※3で説明し、算定方法を34週から変更しています。そのため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第42週以降は1%前後、第48週、第49週は0.2%でした。第50週は0.4%、第51週（今週）は0.8%と若干の増加が見られています。ステージ分類では第38週まではステージⅣ（10%以上）であり、旧算定方法を含み12週連続してステージⅣ相当となっていました。その後は第39～第51週（今週）と13週連続してステージⅢ（5%以上）解消となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日12.26現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第34週（8月23日～29日）286人をピークに減少が進み、第39週に2桁

台 64 人となりました。第 47 週以降は 3 人→5 人→2 人、そして第 50 週は 5 人、第 51 週（今週）は 14 人と増加しています。

確保病床数は第 24 週の 241 床から徐々に増床が続き、第 44 週以降第 50 週まで、計 477 床となっています。したがって、病床使用率は異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）93.9%をピークに減少に進み、第 40 週から 1 桁台の 8.6%となり、第 47 週以降は 0.6%→1.0%→0.4%、そして第 50 週は 1.0%、第 51 週（今週）は 2.9%と増加しています。ステージ分類では第 39～51 週（今週）と 13 週連続してステージⅢ解消となっています。

⑦ 重症入院患者数は第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに減少が進み、第 40 週～第 46 週は 1 桁台となり、第 47 週～第 50 週は 4 週連続してゼロとなっていました。第 51 週（今週）は 1 人となっています。

重症者の確保病床は第 31 週の 30 床から徐々に増床が続き、第 44 週以降第 51 週（今週）まで、計 69 床となっています。したがって、重症病床使用率も入院病床使用率と同様に異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）の 146.7%をピークに減少傾向となり、第 36 週に 2 桁台の 72.7%となり、第 41 週には 1 桁台の 6.1%となりました。

第 47 週～第 50 週は重症患者数ゼロとなったため、重症病床使用率も 4 週続けて 0.0%となっていました。第 51 週（今週）は 2.9%となっています。

ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が 7 週連続した後、第 37 週、第 38 週がステージⅢ（20%以上）、そして第 39～51 週（今週）と 13 週連続してステージⅢ解消となっています。

⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）4143 人をピークとして減少が進み、第 38 週に 478 人と 3 桁台、第 41 週に 73 人と 2 桁台となり、第 49 週は 8 人と 1 桁台となりました。第 50 週（前週）は 14 人、第 51 週（今週）は 36 人と増加しています。

⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）269.0 人をピークに減少が進み、第 37 週 74.3 人と 2 桁台、第 40 週 6.9 人と 1 桁台となり、第 48 週 0.8 人、第 49 週 0.5 人となりました。第 50 週は 0.9 人、第 51 週（今週）は 2.3 人と増加しています。

ステージ分類は、第 39～51 週（今週）の 13 週連続してステージⅢ解消となっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が 26 件追加となり、3.11～12.19 のデルタ株累計は 540 件となっています。

南アフリカに端を発したとされている新たな変異株（オミクロン株：o）が海外で急増していますが、国内においても懸念される変異株（VOC: Variant of Concern）とみなされるようになったため、「変異ウイルス検出状況」に加えております。11 月 28 日までは 0 件と表示しましたが、今後 o 株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行うため、o 株に関しては目下のところバー（-）表示としております。

10 月 1 日に緊急事態宣言地域から解除されて以降も、多くの市民の皆様のご理解ご協力により本市の新型コロナウイルス感染症は減少が続き、新規陽性者数は第 48 週・第 49 週は今年の最低値となりました。しかし、第 50、第 51 週の新規陽性者数は 17 人、33 人と若干の上昇がみられ、それに伴うように関連指標も数値の増加が見られています。医療提供体制については、入院患者が第 49 週の 2 人から第 50 週 5 人、第 51 週 14 人、療養者数が第 49 週 8 人から第 50 週 14 人、第 51 週 36 人と増加が見られています。重症入院患者数は第 47 週～第 50 週で 4 週続けてゼロとなっていました。第 51 週（今週）は 1 人入院となっています。全体としては第 51 週も落ち着いている状況が続いておりますが、首都圏全体として若干の増加傾向にあることは注目しておく必要があります。

ステージ分類では、感染経路不明の割合が減少しステージⅣ・Ⅲが解消されたため、再びステージⅣ、Ⅲのない状態となっています。

若干の数値の増加で再び大きな不安感を持つ必要はありませんが、一方で注意が緩みすぎてしまい安心が油断とならないよう、リスクの高い行動には気を付けながら、新年に向かって日常生活がさらに回復し、それが維持できるよう、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

また、新たな変異株（オミクロン株）が海外で急増しています。国内でも、海外からもたらされたオミクロン株だけではなく、市中感染と思われる感染者が見つかり始めています。しかし、デルタ株であってもオミクロン株であっても、日常生活の中での感染対策はこれまで行ってきたことと共通です。感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされると良いと思います。

気温も下がってきましたが、換気は感染予防に重要です。マスクや手指衛生とともに「時々空気を入れ替える」ということもお忘れなくお願いいたします。これらの対策は冬季に多いインフルエンザやノロウイルスにも共通の予防方法です。

どうぞ良いお年をお迎えください。